

ともちゃんのそらのたび

さく：おさだ はるえ

このおはなしは、せんせいが、こどものころかんがえたおはなしです。みんなも、そうぞうのつばさをひろげて、せかいに1つしかないおなはしを、おうちのひととつくってみるのもたのしいかもしれないね。



ともちゃんは、えほんをよむことがだいすきです。
あるひ、「ピーターパン」のえほんをよみました。
えほんをよんだそのひから、ピーターパンのように、そらをとびたくて、とびたくてしかたがありません。
「どうしたら、そらをとべるようになるのかな？」と、ともちゃんはかんがえました。
そして、いいことをおもいつきました。

ともちゃんは、ふうせんやさんにいって、ふうせんをたくさんかうことにしました。

ふうせんやさんにいくと、ぴえろがいて、ともちゃんは、ぴえろからふうせんを10こかいました。

すると、ぴえろは、おまけにふうせんを、2つくれました。

ともちゃんは、うれしくて、うれしくて、しかたがありません。ぴえろにおれいをいって、おみせをでると…。



どうでしょう。ともちゃんのからだは、ぷかぷかうかびはじめました。

そして、そらへとんでいきました。

しばらくすると、ともちゃんは、とりのむれにあいました。

「とりさん、こんにちは！」

「ともちゃん、どこに行くの？」

「わたし、これからおつきさまのところに行くの。」

「ずいぶんとおくまでいくんだね。きをつけてね。」

こんどは、ひこうきにあいました。てをふってみると、ひこうきにのっているひとは、ともちゃんをみてびっくり…。

そして、ついに、おつきさんのところにつきました。ともちゃんは、つきのなかをさんぽしていると、もちつきをしているうさぎにあいました。

ともちゃんは、もちつきをしたことがなかったので、うさぎにおねがいをして、もちつきをいっしょにさせてもらいました。すると、ともちゃんのおなかから「ぐー」というおとがきこえてきました。おなかがすいているあいずです。

それをきいた、うさぎたちは、ともちゃんにつきたてのおもちをくれました。そのおもちのおいしいことといたら…。

ともちゃんは、おなかがいっぱいになり、だいまんぞくです。ともちゃんはうさぎたちにおれいをいって、いえにかえりました。

ともちゃんにとって、たのしいそらのたびとなりました。

